

キリストのからだの実際のためにキリストを生きる

聖書：ピリピ 1:19-21 前半、3:8-14.

エペソ 3:1、4:1, 11-12, 16、6:18, 20、ローマ 8:2, 29

- I. キリストのからだとしての召会は、キリストから出た純粋な産物です。キリストから出てきて、彼の復活の命を持っているものだけが、彼の補完と配偶者、すなわちキリストのからだになることができます——創 2:22-23、エペソ 5:28-30：
- A. からだのかしらはキリストであり、かしらのからだもキリストです。ですから、キリストをかしらとするキリストのからだは、「あのキリスト」、すなわち団体のキリストです——コロサイ 1:18、I コリント 12:12、コロサイ 3:10-11。
- B. キリスト以外のものはすべて、キリストのからだではありません。キリスト以外のものはすべて、キリストのからだの中で異質の要素です。こういうわけで、わたしたちはパウロと同じように、死にもの狂いになって、からだの実際のためにキリストを生きなければなりません——ピリピ 1:19-21 前半、3:8-14。
- C. このビジョンは、キリストの純粋な要素以外のあらゆるものを排除します。このビジョンはわたしたちを「無力」にし、わたしたちの天然の人に属するどのようなものも活用させなくします——3 節。
- II. キリストのからだの実際のためにキリストを生きることは、わたしたちの霊の中に監禁されて、「キリスト・イエスの囚人」、「主の中の囚人」、「鎖につながれている大使」になることです——エペソ 3:1、4:1、6:20、II コリント 5:20、参照、4、9、14、16 節：
- A. わたしたちはキリストの中に監禁されるとき、彼の啓示を受けて、彼の無限の度量の中で、彼を経験します。すなわち、彼が召会を愛するキリストであること、新しい人を創造するキリストであること、すべてのものをかしらにつり上げるキリストであること、賜物を造り賜物を与えるキリストであること、ホームを造るキリストであることを経験します。それはキリストのからだを建造するためです——エペソ 3:18、5:25-27、2:15-16、1:20-23、4:7-8, 11-12、3:17 前半。
- B. キリストの大使としてキリストを生きる人は、もはや自分自身の自由を持っておらず、もはや自分自身の便宜にしたがって事を行なうこともできません。彼がどこへ行くか、彼が何を行なうかは、彼の選択によるのではなく、神の導き管理する御手の下にあり、神の導き管理する御手によります——エゼキエル 1:1-3、ヨハネ 7:6, 8。
- C. キリストのからだの実際のためにキリストを生きることは、キリストの凱旋行進の中の捕虜となって、わたしたちの霊の中で、キリストの御前ですべての事を行ない、彼の務めの働きにおける勝利を祝賀し、キリストのからだの実際のためにキリストにあって語ることです——II コリント 2:13-17。
- III. キリストのからだは、キリストを経験した結果です。ですから、わたしたちは死にもの狂いになって祈る必要があります。それはわたしたちがキリストを生きて、キリストのからだが実際となるためです。キリストのからだの実際のためにどのようにキリストを生きるかの秘訣は、ローマ第 8 章にあります。それは命の霊の法則の解釈、描写、説明、提示です——ローマ 8:2：

- A. ローマ第 8 章は、「命の霊の法則」というこの用語を用いて、三一の神が手順を経て究極的に完成されて命を与える霊と成った後、どのようにしてわたしたちの霊の中にインストールされ（組み込まれて）、わたしたちの内側で一つの法則、一つの自然で自動的な原則と力になったかを描写しています。これは、神のエコノミーにおける最大の発見、さらには最大の回復の一つです—— 2-3, 11, 16 節。
- B. わたしたちは、インストールされて活動している命の霊の法則と協力して、インストールされた自動的な神の自然で自動的な力、すなわち、三一の神の「電流」である内住の霊に「スイッチを入れる」必要があります。この法則に「スイッチを入れる」ことは、主に触れ続けること、主との継続的な接触の中にとどまること、習慣的に主と交わること、霊にしたがって歩くことによって主の継続的な注入を受けることです——エペソ 6:18 :
1. ミングリングされた霊、すなわち、わたしたちの霊とミングリングされた命の霊の法則の中で振る舞い、活動し、行動し、生活することは、キリストのからだの中で振る舞い、活動し、行動し、生活することです——ピリピ 2:13。
 2. わたしたちの霊の中には、神の臨在があり、神の語りかけがあり、神との集会があり、また神が命の霊の法則として活動することを通しての神の分与があつて、ご自身をわたしたちの内側のすべての部分に分け与えます——ヘブル 8:10。
 3. 霊にしたがって歩くことは、どんな時にも霊の中で祈ることです——エペソ 6:18 :
 - a. わたしたちの絶え間ない、継続的な、生きた、呼吸する祈りは、「主よ、わたしを通して生きてください」であるべきです—— I テサロニケ 5:17. エペソ 6:18. 詩歌、304 番。
 - b. エペソ人への手紙の啓示によれば、わたしたちは絶えず祈る人となって、からだの生活の実際を持たなければなりません。わたしたちは、肉体的にだけでなく、心理的にも霊的にも、目を覚まし、完全に目覚め、わたしたちの眠る性質と眠る存在に抵抗して戦わなければなりません—— 5:14. 6:17 後半-18. コロサイ 4:2。
 - c. わたしたちは、わたしたちの霊を活用して立ち上がり、わたしたちの体と心理に打ち勝ち、主の言葉に注意を払って目を覚まして祈り、どんな時にも霊の中で祈り、目を覚まし、警戒して、わたしたちの祈りの生活を維持する必要があります——マタイ 26:41. エペソ 6:18。
 - d. わたしたちはキリストのからだの実際のために、キリストを生きる習慣を建て上げなければなりません。これは、祈りの習慣を建て上げることによります。すなわち、霊なるキリストを呼び求め、彼と会話することによって絶えず彼を吸い込む習慣を建て上げることによります——哀 3:55-56. 詩 102, タイトル. 詩歌、210 番。
 4. わたしたちは、その霊で満たされることによって、またキリストの言葉をわたしたちの内に豊かに住ませることによって、命の霊の法則にしたがって、キリストのからだの実際のためにキリストを生きることが出来ます——エペソ 5:18-20. コロサイ 3:16-17。
 5. わたしたちは、空であり開かれた器となることによって、命の霊の法則にしたが

って、キリストのからだの実際のためにキリストを生きることができます——マタイ 5:3. ルカ 1:53. 列王下 4:1-6 :

- a. パウロの十四の書簡は、「開かれた器」という言葉に要約することができます——ローマ 9:21, 23. II コリント 4:7。
 - b. わたしたちは極みに至るまで主を愛し、自分自身を彼に対して完全に、徹底的に、絶対的に開き続ける必要があります。そして彼のからだのために、彼にわたしたちのすべてとなっていていただき、またわたしたちの中で、わたしたちを通して、わたしたちのために、すべての事を行なっていただく必要があります——I コリント 1:9. 2:9. 参照、16:22。
- C. 神聖な能力としての命の霊の法則は、わたしたちの内側で活動し、自然にわたしたちに神を生きさせ、神格においてではなく命と性質において神とさせます——エゼキエル 36:27. ローマ 8:2, 29. エペソ 1:22-23. 3:19-21。
- D. 神聖な能力としての命の霊の法則は、わたしたちの内側で活動し、自然にわたしたちをキリストのからだの肢体に構成し、あらゆる種類の機能を持たせます。それによってからだ全体は、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至ります—— 4:11-12, 16。